

# 採用1年目の振り返り

戸澤 美枝子（置戸町立置戸小学校 教諭）

やっとの思いで採用試験に合格し、採用から2年目を迎えた。1年目は3年生の担任となり、現在、持ち上がりで4年生の担任をしている。私は合格まで時間がかかったため、長いこと期限付き教員として過ごしてきた。そのため、自分ではある程度のことではできると思っていたが、現実には（初めての事が多く）できないことだらけ。まして、中学校で合格したのに、採用先は小学校。気持ちも落ち着かず、何もかもが上手くいかず、正直、「もう辞めたい」と思ったこともある。しかし、そのような中で、話を聞くうちに“ただ自分がそう思い込んでいるだけ”ということに気づかされたりするなど、多くのことを知り、「辞めずに頑張ろう」と思えるようになった。そこで、私の採用1年目を振り返ってみたい。

- ① “もう少し周りのアドバイスに耳を傾け、取り入れよう”と思えるようになった。
- ② 期限付き教員の経験は長いが、初めてのことや知らないことばかりで、“新たな学び直し”の1年になった。
- ③ “学び続ける”ことの大切さを実感することができた。

私はつい最近まで、“今までの（期限付きでの）経験があるから、もっとできるでしょ？”と見られている”と思いつみ、何でも自力でやろうとして、結果が出せなくて困っていた。けれど、素直に助けを求めることができなかつたし、しようとしなかつた。

また、“子どもとはこうあるべきで、ある程度完璧にしてから次に渡さなくてはならないものだ”という思い込みもあり、子どもに必要以上に厳しくしてしまっていた。

その上、周りの先生方からのアドバイスや話も、「理解はできるけれど、どうしても納得できない」と言って、きちんと聞こうとしなかつた。

しかし、そうやって子どもと接していくうち、ある出来事から、“子どもは（訳もわからず）締め付ければ締め付けるほど反発する”ということを知った。

「このままじゃ駄目だ。どうにかしないと子どもがかわいそうだ」と反省し、現在、学級を立て直そうとしている。幸い、私の学級は、特別支援学級の担任の先生も一緒に授業に入ってくさっているのだから、その先生の授業の仕方や、子どもへの声かけの仕方などを参考にさせていただいている。また、他の先生方に話を聞いてもらい、アドバイスをいただながら、何とかやっついていこうとしている所だ。始めたばかりでどうなるかは分からないが、子どもたちが最後に「このクラスで（先生で）良かった」と思えるような学級作りをしていきたい。

今まで、期限付きの教員をしていた時は、「どうせすぐ終わるし」という気持ちの方が大きく、“何かを学ぼう”という意識は薄かつた。しかし、正規採用教員の1人として、意識を変え、“きちんとした学び直し”の1年にする事ができた（師範塾で『今まで何でも逃げ回ってきたのか（それじゃ駄目だろ）？』と言われたことも大きかつたが）。また、学びもせずによい学級は作れない、ということに気づかされ、“学び続ける”ことの大切さを実感することができた。しかし、未だに分からないこと、出来ないこと、知りたいことだらけである。これから先も、子どもたちのために、とにかく謙虚に、吸収できることは何でも吸収し、頑張っていきたい。